

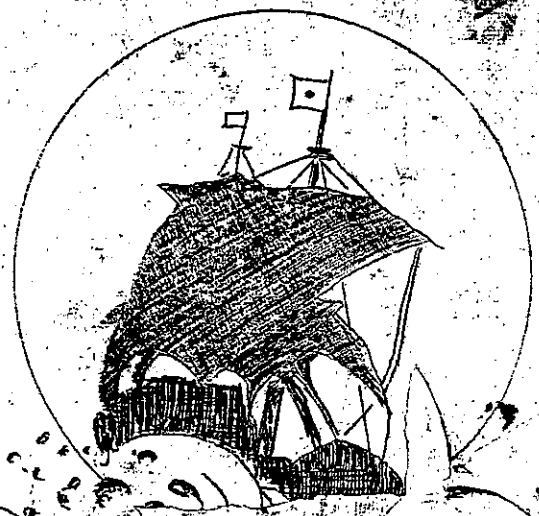
なでしこ

第百八十六號

昭和十三年十月號

光
け
東
よ
り
ま

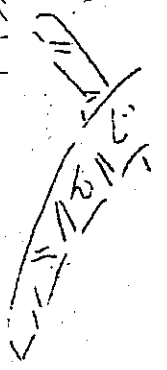
大村尋常高等小學校を以て編輯部發行



56
57

學校日誌便り

一十月一日 午前十時出征
二今日 島嶼青年學校專任教員講習會並に研究會出席の爲め
三今日 眞岡校長上京
四十月四日 全職員三年調査に出づ
五十月五日 第一時強化週間並に時局に關して各級訓話
六十月七日 午前四時四十分全校々庭集合 大神山神社参拜 國威
七今日 宣場出征軍人武運長久 傷疾軍人平癒祈願祭奉列
八十月九日 慰問文並に慰問作書書方(完成)祭送
九十月十日 午後三時大村小等赤十字團員(尋五以上女)神社境内久遠清
十十月十日 勤儉力行日につき全兒同食禁示断行
十一十月十日 戊申詔書御下賜記念日につき各級訓話
十二十月十日 靖國神社合祀祭につき全校大神山神社に参拜
十三十月十日 放課後尋五上女 神社境内、参道清掃
十四十月十日 漢口陥落祝賀提灯行列に尋三以上参加



バナナ

小島 清子

青いバナナの西町のちぢさんから
もうひきました。いつになつたら
うと、私は毎日バナナのそばへ
とさわって見るのでおかあさんに
ました。ニ三日わすれておきました。
いて見たら もう黄色になつて、
いさうにじゆくしてました。お
たたくてみるおかあさんに、「いつ
るの」とききました。「もう一日
たつた」たべられると、いひまし
はなんだかさわって見たいので、
えました。アーンとばなのおいし
にほかほしましたので、たべた
んでした。それが二日たつて、
かへったとき、おかあさんがバ
うれしくつたてを見て

ゆかべのおかず

淺沼一子

夕方 私がなべのおかづを取って
しやうなおかづが入つていたので、
ちに入つて出ますと、もうみんな
たべておきました。私も早く着物を
心をとばやうとすると、ナツキの
見て、私はびつくりして、「おか
ずつきのおかづ」と聞きました。す
おかあさんは「そうだよ」といひ
おかあさんに、「このおかづおいし
のがこんなまづいんだね」といひ
「それでもまづくだけたんだもの
いさ」とおつしやいました。私は
まづからたけれどもみんなと一し
ました。

うとつてもおもしろいのです。

ぼくはしゆくたいがすんで おふろへ行かう
 と思つて外へでました。
 お日さまが山のかげにかくれて、空は夕やけ
 のやうにまっかです。ふと見ると三日月
 山から朝日山の方にとてもきれいなにじの
 橋がかかってクレヨンを並べたやうです。
 にじだにじだ。とぼくは犬をいこめて
 一郎さんをよんで見せて上げました。

一 雨ふり

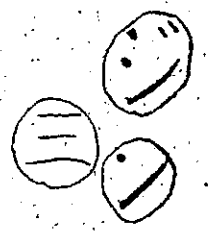
菊池 スズ
 雨が降り出す時、雨がふってぬまし
 ながら雨のやむのをまてておりました。す
 ると二へキク子ちゃんのお家のあちぢ
 キク子ちゃんのまんとをむつてきました。
 して私に「このかさにお入りなさい」とお
 やいしましたので私は一しよにかさに入
 りますと、キク子ちゃんのお家の前
 へきました。私はもうぬれてもいっからかす
 けをしたがり、キク子ちゃんのかあぢぢ
 「このかさをさして行きたまさい」とおつ
 思ひました。そのまゝ山へかへり
 つくしびました。

しやべり、うらちまでさして行つてお
 のあせんに、その二とをさして、かへり
 くるよ」といってかへりつきました。

ラヂオのいさう
 私はあつて、ラヂオのいさうをする
 キーばんをはりのこころで、手を上
 るとき、むねがすうと、ひきまうになり
 ました。私はもつと手をうんと上げ、
 もつとひきまうになり、かもしれな
 思つてうんと手をあげました。その時
 三年の女の子の足に、おけん「おけん
 むるのが見えました。

たか

たか山のかつら、おのり、おのり、おのり、
 まほりました。その時ぼくは「たか山
 いきました。たか山は、おのり、おのり、
 うきと、とりをねらうて、おのり、おのり、
 思ひました。そのまゝ、山へかへり、
 つくしびました。



ぼちの思ひ出

寺田 桂子

うちには、ぼちと、いぶ、犬が、居ま
 した。ぼちは、かはいさう、に、石坂さんの
 人に、くび、をつられて、しにました。
 ぼち、をつかまへた時、ぼちは、大急
 ぎで、かけだして、とうちゃん、の、居る
 やくば、へ行つたと、やつちやん、が
 いひました。私は、なんだか、今、よその
 犬、を見ると、ぼち、が、こひしく、なり
 ます。ぼち、は、ぼうや、が、だいすき、で
 ました。それで、この、つづり、かた、に、かき
 ました。

にはとり

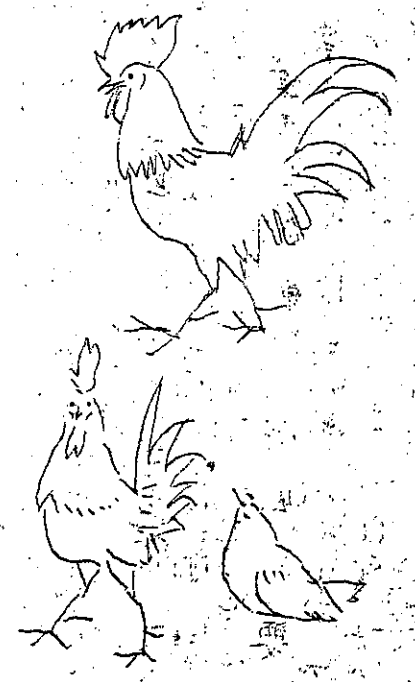
渡 沼 實

ぼく、が、にはとりの、こや、の前を、
 とほると、おなが、が、すい

て、ある、やうに、いふので、あき、を、や
 ると、うれしがつて、たべます。すこし、いそ
 ぐときは、バナナ、の、葉を、少し、やつ
 てから、いきます。にはとり、は、たいがい
 の、うち、のは、を、と、こどりの、方が、た
 べる、けれども、うちのは、あんまり、たべま
 せん。を、んな、どりの、でも、二羽、は、ほかの
 とりに、つ、か、れる、ので、かはいさうです。
 僕の、にいさん、 沖山 要

僕、の、にいさん、は、きの、ふ、がいし、つ、で
 きて、僕、たちに、おあし、を、く、れて、すく
 カヌー、を、作りました。さうして、つばの
 め、さを、つりに、いか、ど、に、い、さん、が
 いった、ので、僕、は、ついて、いった、けれ
 ども、何、一、び、き、も、つ、れ、な、かつた、ので
 はい、さん、が、いち、ば、に、行、つ、て、あ、き、を
 取、つ、て、おい、で、ど、い、つ、た、ので、僕、は、いち、ば
 に、急、いで、行、つ、て、つ、ば、の、あ、き、を、取
 取、つ、て、か、へ、つ、て、き、て、つ、ば、に、あ、き、を、
 や、る、と、よ、ろ、こ、ん、で、た、べ、た、す、る、と、い

さんが「こんどのがいしつに、つりはまに あそびにいかうと」いつた。
 ねこ 大塚 昭三
 ぼくが「こぞうとよぶ」とぼくの
 ところへ「きます。さうしてぼくが、
 だいてやるとねこはうれしそうに
 なつておました。さうしてぼくがだ
 いて、だいでころにぶんなげたら、にや
 おと、いひました。こんどはさかなを
 やつたら、あいしさにくひました。それ
 からねこが、あなくなつた。からさび
 しくなりました。いくらかたつてから
 おこがきました。ぼくが「こぞうと
 よんだら、にやあといひました。
 にはとり 和田 貞子
 私「うちにはとりが、一羽
 かつてあります。朝、あかさんがみ
 つちやんに、にはとりを、えさをや
 りなさいと、おつしやいました。みつちや
 んが、すくにはとりを、やりますと、



にはとりは、ここと、いつて、なきく
 えさを、たべて、しまひました。えさを
 たべて、しまふと、また、ここと、いつて
 えさを、さがして、ゐます。私がかご
 から、だして、やると、うれしそうに、えさを
 を、さがします。私にはとり、に、あじら
 むしを、やると、とんで、きて、たべます。
 私にはとりが、かはい、と思ひます。

尋四の文

●神社の朝
 僕と保ちやんは、神社の石段を上つて行
 った。東の空は、みかん色に、色づき
 はじめた。風が吹くたびに、松のこずえ
 が、空の上にゆれる。僕はくまては、さ
 保ちやんが

といふと、口をとがうして、上の方へ行
 つて、しまつた。僕たちは、笑つた。
 4ユウ4ユウ
 と、目白が、鳴聲を、たてながら、とんで
 行つた。
 すくしい風が、ズボンの、すそを、ゆする。
 本當に、すがすがしい、氣持だ。

●先に公園の方を、はいて、しまは、のし
 と言つたので、たまつて、公園の方へ、
 行つた。
 公園を、はきながら、下の方を見ると、
 静かな中、に、さや、と、吾た。
 氣持が、よい。
 急に、人の、聲が、した。見ると、涼子、達、だ
 った。僕が
 「もう、はいて、しまつた、から、歸つて、よ
 ろしい。」

●うれしい、ゆめ
 僕が、山道を、歩いて、あると、へんな、おぢ
 いさんが、出て、きて、「これ、これ。」と、言
 つて、僕のかたを、た、き、ました。
 僕は、びつくり、して、逃げ、ました、が、その、お
 ぢいさんの、足の、早さ、で、とう、く、お、ひ、つ
 僕、は、小、さ、く、な、つ、て、ぶ、る、く、ひ、る、へ、て、る
 ました、が、おぢいさんは、「あ、は、い、い、い、
 頭、を、そ、ん、な、に、下、げ、る、な、い、と、言、つ、て、僕
 の、前、に、す、わ、り、ま、し、た、と、言、つ、て、僕
 さう、い、う、何、か、べ、し、や、く、し、や、へ、つ、て、ぶ

る事にした。風防林の中はもう薄暗くなつて来た。

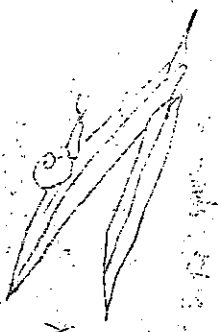
○ 川遊び 廣江良雄

昨日の午後僕は吉彦君と川に舟を浮かしに行つた。僕のは紙で作つた舟吉彦君のも紙舟。川の水はしほ路のやうにどくどく流れてゐる。僕と吉彦君は同時に舟を浮かした。手をはなすと舟はずん／＼走り出した。後を追つて行くと舟は石にのし上げた。はつと思つて手を出したが間に合はず二つともひっくりかへつてしまつた。けれども幸にこれはなかつた。ふと見ると川のふちには泡が一杯いたまつてゐる。僕はぎん／＼うくわんの枝を折つて泡がにげないやうにせき止めた。泡は見る／＼たまつて来た。それを手に取つてふつと吹いて見た。すると風船玉みたいなとんで行つた。気がつくときあたりが段々うす暗くなつて来たので家へもどつて来た。

○ せみとり 加賀谷肇

とても暑い或日僕はせみ袋を肩にして近くの

山へせみ捕りに向つた。山の下に來るといいいと聞える。とてもたくさみさうだ。見上げる。松の高い枝低い枝にたくさみ止つてゐる。をすめすめなどが入交つて太陽に照されて光つて見える。上るに従つてかんのよいせみがびたりと鳴止む同時にはつと霧のやうなものも吐いて逃去るものもある。だが残つたせみはまだたくさみある。あまり高くなれば枝に竿を向けた。せみの羽根が光る。はたんと袋を伏せた。ふくろがはさ／＼とゆれる。捕れたのだ。少しも鳴かない。手に取つて見ると大きい女せみだつた。次は第二の枝だ。今度こそ男だ。胸がどき／＼する。さつと袋をかぶせやうとしたら袋が枝に引か／＼つてとれてしまつた。せみは勿論雲をかすみと逃げてしまつた。残念だよし今度こそ。と次の木の幹にとまつてゐるせみに迫つた。首尾よく敵はとれた。かうしていつもより多く獲物をとつてかへつたらうんと自まんしてやると思ひながら山を下つた。



高嶺

日曜日朝の雨 金川 マキ

北の空は次第に明るくなつて

いて見ると空の雨の中にお

てある竹笋の下側をうす／＼

の水玉が気持よくうす／＼

かか／＼と降りかかると

方に向つてつる／＼と

先かと思つて途中で地面に

あはれは又ぢつとオノオノと後か
う来るのと一語になつて落着く
もあつた。じつとせめてゐる。何
かその水玉がせめてゐるもの。様
に思はれて私はたまらなく可憐
なつて来た。

マリン 櫻井繁雄

静寂がたゞの玉か高かつた

で下の中にとびこんでしまつた

レウん顔しておの／＼と又そのんが

がとつてく水なり。

少しくはやくとせか僕かと

がとつてく水なり。

いあはて... 三先生をまじわけて... 前へ... 進んで... 三先生をまじわけて... 前へ... 進んで... 三先生をまじわけて... 前へ... 進んで...

昨夜のトーカー 水家 正子
昨夜は郵便局のトーカーで... 和は... と君勤ちとを...

高二綴り 相撲実況放送

水家正男

JOOOKこちらは小笠原放送局であ... ます。只今マイクを小學校重衣に... 下へつけました。えより青年相撲実況... おおしらせ致します。東西の両だまり... には早くより青年力士の面々が... 莫妻を現はしてゐます。勝負合や初... らんとしてゐます。西磯崎静夫東吉... 田昇雨力士盛にもみあつてゐます。あ... 七崎押されてゐます。押されてゐ... す。あ、土俵は後あま所一す磯... 君うんとふんばりました。全身あ... ころ押しかへりました。吉田君は... 押しかへされてはならぬと之も全身の... 力をこめて押す。押し返す。押し返す。雨力... 必死の力もみあひ磯崎力まさつたかく... 押し返へします。押し返へします。磯崎... 二俵はト押しかへされてました。磯崎

人ガ山と今晩は此の向したト... 一と見ると同じと... 物をそんなにも二度見る必要がな... いと思つて見には... せんと... 思つて... 思つて... 思つて... 思つて... 思つて...

あと一息とんと押しました。磯崎勝... か吉田勝か吉田勝はやく体をひきま... た。磯崎力あまつて土俵外と一歩ふみ... ました。あつとあがるやんせい東... 吉田の勝利。

或る朝 菊池照子

いんくくく... と時計は三時を教へた。下... はとけぬ起き着物を着かへて外に出... 新鮮な空気を吸ひながら深呼吸... た。あたりはまだ真暗である。時... 濯物が朝風にふかれながらう... んのかがかにもさむいも見える。さ... うなつてはあられないと思ひ井戸... 足を向けて水さくんで朝事にとり... づた。仕事は順々にはかいつた... 何時の間にか時間はいま五時... はうす明る。うさうさ来た。あち... もこちらでも雞の鳴声が聞... 又ふさい子供等はそろそろと起...

の音聲がはしめる朝日は早くてくる。四方八方の山は金色に輝き空には一
月の仕事はこれですんだと一人言をい
ひながらおせんに向ふた。

護國の英霊にたいして

佐山和子

礼在の日支事変が連戦連勝するも御被成によるはもとよりなれど今戦
ておられる兵隊さんの力と東洋平
遠のため犠牲は決して無駄では
なかつた。戦跡にはもう支那の民衆が
あつて日の丸を立てて行末は我が日
と手を取合つて東洋平和を確立しや
うと、い眞の姿である。此の間の活動
島嶼に海軍事変のニユリスがあつた
のや、白布で被れぬお骨が戦友の

胸に抱けながら凱旋する数多の公卿
へた者は皆感涙にむせんであら。思
はす心の底よりくつと熱いものが
みあげてきた。其の戦死者の家族に
對して感謝の念を心の平で捧げた。
且死地におもむきたら生きて帰ら
と心さすかつて。兵士と金でやと
である兵士とは比すべきものではない。
この事変も今やでは何万人の犠牲を
だしてゐる。この尊い靈を何かに感謝の
意を捧げやうてはないか。